

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	プロフェッショナル人材育成のためのコンピテンシー養成プログラム開発		
学校法人名	学校法人三橋学園		
学校名	船橋情報ビジネス専門学校		
代表者	鳥居 勝一	担当者・連絡先	鳥居 高之

<事業の概要>

従来の専門知識・技能に次ぐ職業教育の新領域として「コンピテンシー教育」を位置づけ、コンピテンシーの養成を目的とした教育プログラムの開発を行った。開発後には実証講座を実施し、教育プログラムの有効性や今後の検討課題を検証した。また、教育プログラムの開発と並行して、企業におけるコンピテンシー養成に関する調査、企業が社員に求める能力・スキルに関する調査を行い、その分析結果を教育プログラムの内容に反映させた。

<成 果>

コンビニエンス・ストア経営の支援をテーマとするケーススタディ演習により、情報収集力や問題発見・解決力などのコンピテンシーを練成する教育プログラムを開発した。標準学習時間は60時間で、学生のグループワークを中心とする構成になっている。IT系学科での活用を想定して開発したが、ここでは敢えてIT以外の領域の課題・テーマに取り組みせることで、一般性の高い基盤能力の強化を狙っている。また、指導方法にも独自の工夫をこらし、学習効果の向上を図っている。内容的にはIT系以外の学科でも（特定の分野・学科に関係なく）利用できるものに仕上がっている。

実証講座として専門学校教員を対象とする実験的な授業を実施し、教育プログラムの内容や指導アプローチに対する評価を行ったが、その結果から教育プログラムとしての有用性や今後の可能性に対する確証を得た。

また、企業に対する調査やコンピテンシー養成事例に関する調査によって、企業が現在社員に求めている基盤的な能力の具体的な内容を把握・明確化することができた。教育プログラムの内容構成を構想するために実施した調査研究であるが、この結果は、今後の専門学校教育のあり方を検討する上で様々な示唆を含むものとなっており、調査報告は分野を問わず多くの専門学校に活用してもらえる内容となっている。

専門学校の場合、職業教育や即戦力養成という意味合いから、職場での即効性が高い専門知識や技能の教育に重点が置かれる傾向が強いが、それらを支える基盤的な能力（コンピテンシー）があつてこそその専門性であることは間違いない。つまり、専門性とコンピテンシーは車の両輪であり、これからの専門学校教育ではこの領域についてもしっかりとした取り組みを進めていかなければならない。本事業の実施により、そのための第一歩が踏み出せたものと考えている。